

⑥ 有限会社

奥出雲椎茸

育成などの対策が急務である。

「仁多米」「仁多牛」に続く特産品として、生産から販売までの一貫体制が確立され全国の生椎茸の一大産地となり、市場からの高い品質の評価と信頼性のもとで安定した経営展開が図られている。

椎茸事業とホダ木生産事業については生産者と一体となり生産振興に取り組み、安定的な供給が行われているが、より一層良質なホダ木生産に努め栽培農家の所得の向上を図りたい。

また、農家の高齢化等から生産量が減少傾向にあるために後継者



▲ 椎茸集出荷施設(全国の市場で高評価を受けています)

(単位:千円)

(有)奥出雲椎茸		H15	H16	H17
		流動資産	394,996	318,472
固定資産	352,669	354,651	381,741	
流動負債	387,477	352,368	407,206	
固定負債	304,477	264,728	222,886	
売上高	1,417,783	1,477,602	1,397,921	
資本金	55,000	55,000	55,000	
累積利益(当期利益)	710(254)	1,026(316)	1,221(195)	
町からの補助金等	0	0	0	
町への寄付金	22,520	20,030	20,000	

(有)奥出雲椎茸

【設立年月日】 H3.3

【資本金】 55百万円

奥出雲町:50(91%)

仁多郡森林組合:2(3.5%)

奥出雲椎茸生産組合:3(5.5%)

※決算月3月(4/1~3/31)

⑦ 有限会社奥出雲 サンマッシュユ

この状況が続くものと見込まれる。

町の新たな特産品開発と地域雇用の創出の場として舞茸等の生産施設を経営している。

経営状況は八期から十二期までは利益計上されていたが、近年は大手メーカーの進出により市場価格が大きく下落し、更には施設の老朽化に伴い機能の一部が休止状態にあり、増設時の生産計画も達成できないまま経営に大きな影響を与えている。

こうした状況により、決算は二期連続の損金計上となりその累積損金は四四、七九六千円となっているが今後とも

また、施設増設時の自己負担部分の借入金の償還が平成三十六年度までの長期間であり、その内の七割が町費からの補助金で賄われ、町にとっても大きな負担となっている。このように経営が悪化している背景には、施設が三箇所に分散しているために効率的な経営が出来ず、又生産現場の責任体制や会社全体の組織体制も十分に確立されていない等企業としての機能が果たされていない点がある。